

平田和明先生の略歴と主要業績

略歴

- 一九五三年 静岡市生まれ
- 一九七二年 県立静岡高校卒
- 一九七六年 静岡大学理学部卒
- 一九七八年 京都大学大学院理学研究科 修士課程修了 理学修士
- 一九八二年 同 博士課程研究指導認定 退学
- 一九八二年 (財) リトルワールド研究員 一九九三年まで
- 一九九〇年 京都大学理学博士
- 一九九三年 立教大学 文学部助教授 一九九八年まで
- 一九九八年 同 教授 二〇一九年まで
- 立教大学では「人の移動と文化変容究センター」代表、「平和・コミュニティ研究センター」代表、文学部長、専攻主任、学科長などを歴任
- 立教セカンドステージ大学 兼任講師 断続的に現在まで継続中
- 二〇一四年 立教大学 退職
- 二〇一九年

栗田和明先生の略歴と主要業績

主要研究業績

【編集書、論文】

- 一九七九 「紙すき技術の様態——丹波黒谷の事例より——」『季刊人類学』一〇二：一四八頁。
- 一九八一 「西表島の民具」『八重山群島の伝統的生業に関する生態人類学的研究——昭和55年度文部省科学研究費補助金（一般研究C）研究成果報告書——』三七四〇頁。
- 一九八二 A Market on Boundary: The Economic Activities of the Pokot and the Marakwet in Kenya, *African Study Monographs*, supplementary issue, 1:71-103.
- 一九八二 「ケニア西部」ポコット族とマラクエツト族の経済活動——マーケットとその背景——」『季刊人類学』一二四：六三—一四頁。
- 一九八三 Market at Chesegon Village: A Preliminary Report on Economic Activities of the Pokot and the Marakwet, In B.E. Kipkorir, R.C. Soper & J.W. Ssenonyonga (eds.) *Kerio Valley: Past, Present and Future*, Institute of African Studies, University of Nairobi: 61-74.
- Material Culture of the Pokot in Kenya: With Special Reference to Circulation of Articles, *African Study Monographs* 3:87-104.
- 一九八四 「技法の変異と分布——久米島袖を例にして——」『リトルワールド研究報告』七：一二三頁。
- 一九八六 「ポコット族の物」『季刊民族学』三八：九二—九九頁。
- Residential Pattern of the Nyakyusa People in Tanzania, *Little World Studies*, 8:1-17.
- 一九八七 「ニヤキウサ族の家と居住形式」和田正平編著『アフリカ 民族学的研究』同朋舎出版、六〇九—六三〇頁。
- 「マーケットにおける各人の役割——ケニアの小マーケットにおける男女、既婚未婚の区別による分析——」和田正平編著『アフリカ 民族学的研究』同朋舎出版、七一五—七二九頁。
- 一九九〇 「ニヤキウサ人の農耕の生態学的、社会学的研究——畑地の面積と入手方法に注目して——」和田正平編著

『国立民族学博物館研究報告』別冊一二・八九―一二六頁。

——「アフリカの自然と農耕——ポコット人とニャキウサ人の事例——」『日本アフリカ学会会報』二一：一五―一六頁。
一九九一「タンザニアのニャキウサ社会の歴史的变化」田中二郎、掛谷誠編著『ヒトの自然誌』平凡社、五二五―五四二頁。

一九九三 An ecological study on land usage of the Nyakyusa people in Southern Tanzania: continuity and changes from the Traditional Society. *African Study Monographs*. Vol.14-4:187-226.

一九九五「ニャキウサ人の訪問活動と移動——空間認識の理解への試み——」『リトルワールド研究報告』一二：一―二七頁。

一九九七「イゴマー・タンザニアとメラウイを結ぶダンス——」『季刊民族学』七九：五六―六三頁。

一九九八 *Igoma dance of the Nyakyusa in Tanzania and the Nkonde in Malawi: From viewpoint of movement of people*. K. Kurita(ed.) *Ethnological studies in southern Africa: The Nyakyusa(Tanzania), Shona(Zimbabwe), Ndebele(South Africa), and Tswana(South Africa)*. Occasional Papers, Centre for Asian Area Studies Rikkyo University, 7:7-45.

一九九八 (ed.) *Japanese Outlook on Africa: How Information Is Transmitted by Media?* Occasional Papers 8: 75. Centre for Asian Area Studies, Rikkyo University.

二〇〇〇 *Connections between the Nyakyusa in Tanzania and the Nkonde in Malawi: From The Viewpoint of dance and trade*. A report to Tanzania Commission for Science and Technology, University of Malawi, University of Dar-es-Salaam, and National Museum of Tanzania.

二〇〇一「移動の諸相」吉田憲司 編著『現代アフリカにおける文化運動とエスニシティの人類学的研究』国立民族学博物館、九〇―一〇六頁。

二〇〇一「ダンスと交易から見たニャキウサ人とンコンデ人の交流」和田正平 編著『現代アフリカの民族関係』明石書店、二六一―二八八頁。

栗田和明先生の略歴と主要業績

二〇〇四 『マラウイを知るための四五章』明石書店、二九五頁。

——「ソングウェ川をはさんだ交易——国境付近での商活動——」豊田由貴夫編『生活世界から捉えるグローバル／ローカル化の動態に関する地域間比較研究』立教大学学術推進特別重点資金単独研究科プロジェクト研究成果報告書、六六―七九頁。

——「タンザニア国内外でのニャキウサ人の移動——ライフヒストリーの調査から——」田中二郎、佐藤俊、菅原和孝、太田至共編『遊動民——アフリカの原野に生きる——』昭和堂、五九三―六二九頁。

二〇〇五 「ニャキウサ人がつなぐ地域——近所から国際移動まで——」林倬史編『アジアにおける平和構築のためのトランスナショナル・コミュニティの形成』立教大学平和・コミュニティ研究機構、二五―四四頁。

——*Connections between the Nyakyusa and the Nkonde from the viewpoint of dance and trade: with video data of dances.* Centre for Human Migration and Acculturation Studies, Rikkyo University.

——(ed.) *Movement of people and goods around the international boundary of Tanzania and Malawi. Studies on human migration and acculturation: Proceedings of the Symposium. Centre for Human Migration and Acculturation Studies, 123-140*

二〇〇六 「アフリカにおける人の移動と国境を越えるコミュニティ」林倬史編『アジアにおける平和構築のためのトランスナショナル・コミュニティの形成』二七―三〇頁。

——*Dances of the Nyakyusa and the Nkonde, vol.2* Centre for Human migration and acculturation studies, Rikkyo University.

——共編者『タンザニアを知るための60章』明石書店、三七三頁。

——「アフリカ大陸出身者の移動と国境を越えるコミュニティ——アジアとのつながりを探る——」『平和・コミュニティ研究』二・六〇―七二頁。

二〇〇七 「タンザニアニャキウサ人のバナナ栽培」『アジア・太平洋地域における自然環境の資源化に関する基礎的研究』立教大学、七〇―八五頁。

——「東南アジアとアフリカを結ぶ交易活動と人のネットワーク形成」林倬史編『アジアにおける平和構築のためのトランスナショナル・コミュニティの形成』立教大学平和・コミュニティ研究機構、一一三—一三二頁。

——「タンザニア人交易人のタイでの活動——事例の分析から——」佐久間孝正・林倬史・郭洋春編『移動するアジア——経済・開発・文化・ジェンダー——』明石書店、一九四—二一九頁。

二〇〇八 「アフリカ人交易人の東南アジアでの活動——南Ⅱ南交易従事者の移動とコミュニティ形成——」人と移動と文化変容研究センター編『国際的な人の移動と文化変容』ハーベスト社、一一七頁。

二〇一〇 『マラウイを知るための四五章 第二版』明石書店

二〇一〇 『アジアで出会ったアフリカ人——タンザニア人交易人の移動とコミュニティ——』昭和堂

二〇一三 Africans in China and Thailand: Tanzanians' informal commercial activities spreading over Asia and Africa. *Proceedings of International Symposium on Socio-Cultural Change in Global Cities jointly organized by Center for Urban and Social Research, Korea and Rikkyo Institute for Peace and Community Studies, Japan. Held on 20-21st Oct. 2013 at University of Seoul.* 26-37.

二〇一四 How Tanzanians spend their transnational livelihood between Africa and Asia? Rikkyo Institute for Peace and Community Studies(ed.) *Proceedings International symposium on global migration and transnational activities in Pacific Rim.* 35-44.

二〇一五 編著『環太平洋地域における移住者コミュニティの動態の比較研究——近年の変遷に注目して——』立教大学平和・コミュニティ研究機構

——共編著『タンザニアを知るための六〇章 第二版』明石書店。

——Tanzanian traders in South-East Asia: Cases in Guangzhou, Hong Kong, and Bangkok. Hankuk University of Foreign Studies(ed.) *Crossing and hybridity in African societies and cultures: proceedings of the Fifth IAS Humanities Korea(HK) International Conference held 29-30 Oct. 2015 at Hankuk University of Foreign Studies.* 49-58.

栗田和明先生の略歴と主要業績

二〇一六 編著『流動する移民社会——環太平洋地域を巡る人びと——』昭和堂

第一章「移動する者から見た移民コミュニティ——広州へのタンザニア人交易人に注目して——」一―三二頁。

第七章「移動する人の現状と研究視点——移民の文化への注視——」一五九―一六八頁。

二〇一八 編著『移動と移民——複数社会を結ぶ人びとの動態——』昭和堂

第一章「人の移動の普遍性——定住者の視点を離れて——」三―二六頁。

——「東・南部アフリカ―東南アジア地域の都市と後背地——港市概念を移動の視点から点検する——」弘末雅士編『海と陸の織りなす世界史——港市と内陸社会——』春風社、三一九―三四二頁。

【通信、資料、小論】

一九八三 「マラクエツト族の灌漑用水」『リトルワールド』三…一六―一七頁。

一九八五 「タンザニア・ニャキュウサ族の家」『リトルワールド』一四…四―九頁。

一九八六 「技術誌記載の方向の枠組み——共同研究『アフリカ諸民族の技術誌の整理と分析』——」『民博通信』三三…四―四五頁。

一九八七 「なぜ、アフリカには丸い家が多いのか」米山俊直編著『アフリカ人間読本』河出書房新社、九〇―九五頁。

——「ワトソン・ムワンゴンボラ氏の日」米山俊直編著『アフリカ人間読本』河出書房新社、二五〇―二五二頁。

——「タンザニア・ニャキュウサ族の庭をめぐる生活」『C&D』七四―一八…六―七頁。

——「ポコット」『マラクエツト』石川栄吉、梅棹忠夫、大林太良、蒲生正男、佐々木高明、祖父江孝男編『文化人類学事典』

弘文堂

一九八八 「アフリカの親指ピアノと日本の三味線」『リトルワールド』二六…二六頁。

——「ハチミツを食べる」『TEN TEN』四…一〇。

一九九〇 「簡単な罌」『リトルワールド』三二…一八。

一九九一 「雨季のタンザニア、マラウイ紀行」『リトルワールド』三八…六―九頁。

——「東アフリカの農耕——ケニア、タンザニアの三民族の事例より——」（財）名古屋国際センター編『アフリカ
二〇〇一——二一世紀に向けて日本とアフリカとの実りある関係を考えよう！——』名古屋国際センター、四二一
四九頁。

一九九二 「タンザニア」「マラウイ」二四六・二四七頁『世界の国ぐに大百科』第3巻「中南米 アフリカ」ぎょうせい、
二一四・二一七頁。

——「酒の系譜をたどって——展示物を見て——」『リトルワールド』四一・一二一・一五頁。

一九九三 「収集・調査報告——タンザニア・マラウイ——」『リトルワールド年報』一五・六・八頁。

——「マラウイ北部の町で」『リトルワールド』四五・一四一・一七頁。

——「マラウイ国での調査遂行の可能性」『日本アフリカ学会会報』二四・二四・二七頁。

一九九四 「アフリカの村に住む楽しみ」『立教』一四八・四〇・四四頁。

一九九八 大林太良、岸野雄三、寒川恒夫、山下晋司共編『民族遊戯大事典』大修館書店

——「タンザニア」六五六・六五九頁、

——「マラウイ」七二八・七三〇頁。

一九九九 「東アフリカ歴史紀行——タンザニア ニヤキュウサ・ランド紀行——」『歴史と地理』五二一・三二一・四〇頁。

——「アフリカ南部紀行——道路交通と人々の動き——」『歴史と地理』五二三・二二一・三一頁。

二〇〇〇 「ニヤキュウサ・ランドの広がり——食物を中心に——」『リトルワールド』七三・三・三四頁。

——「マラウイ」「ニヤキュウサ」など、約20項目の分担執筆。綾部恒雄 監修『世界民族事典』弘文堂

二〇〇二 「特定の地域と年代をはなれて」『史苑』六三一・一・一五頁。

——「ダンス研究におけるDVD映像資料の作成——タンザニアとマラウイの素材から——」『大学教育と情報』一一一・
二七・二九頁。

二〇〇三 「国境を渡る人と物——タンザニアとマラウイ間で——」『クロスロード』一二月号、八八・八九頁。

二〇〇四 「タンザニア国内外でのニヤキュウサ人の移動——ライフヒストリーの調査から——」『立教大学人の移動と

文化変容研究センターニューズレター』三・二頁。

——『ソングウェ川の蛇行について』『立教大学人の移動と文化変容研究センターニューズレター』六・六六―七九頁。

二〇〇五 「インド、シムラにて」『史苑』六五・二―一四頁。

——座談会「平和とコミュニティについて考える」宮島喬、五十嵐暁郎、栗田和明、林偉史、立教大学平和・コミュニティ研究機構（編）『平和・コミュニティ研究』創刊号、一二―三三頁。

二〇〇六 「東南アジアのアフリカ人——紛争地とのつながり——」『立教大学平和・コミュニティ研究機構ニューズレター』四・四頁。

二〇〇七 「タイとアフリカ諸国を結ぶ小規模交易人——実例の紹介——」『立教大学人の移動と文化変容研究センターニューズレター』一七頁。

——「東南アジアにおける小規模アフリカ人交易人の活動——その移動とコミュニティ形成——」『立教大学人の移動と文化変容研究センターニューズレター』一八頁。

——「ガンジの足跡とズール人——開催地ダーバンをめぐる——」『図書館雑誌』一〇一・五・三〇―一頁。

二〇一四 「タンザニア人の国外での活動——『アジアで出会ったアフリカ人』外伝——」『なじまあ』四・二四―二六頁。

二〇一五 「人の移動と平和・コミュニティ研究の方向性——立教大学での一〇年——」『平和・コミュニティ研究』五・一〇―一四頁。

【書評】

一九八四 「機械の中の幽霊」（書評）『リトルワールド』九。

一九八五 「理科系の文学誌」（書評）『リトルワールド』一五。

一九八七 「アフリカの日々」（書評）『リトルワールド』二一。

一九八八 「週刊朝日百科 世界の食べもの」（書評）『リトルワールド』二四。

一九八八 「全訳 笑府——中国笑話集——（上・下）」（書評）『リトルワールド』二六。

- 一九八九 「エチケットの『なぜ?』教えます」「文明人の生活作法」(書評) 『リトルワールド』二八。
- 一九九〇 「理解できない悲惨な事件」(書評) 『リトルワールド』三四。
- 二〇一〇 *Preserving the cultural heritage of Africa: Crisis or renaissance?* Yoshida. K. & J. Mack eds. James Curry, Unisa Press 『アフリカ研究』七六頁。